

ほほ月刊 んだもしたん

(諸県弁の「まあどつした事でしよう」)

ランチ野郎

『お代官様お許し下さい。もう、食べられませぬ...』の巻

見参!

宮崎市の山崎街道と大島通線は様々な飲食店があり競争も激しいだろうと想像しますが、今回は、青葉町交差点から大島通線にある肉代官に行ってみました。ここは以前、神田川のバイキングレストランがあった場所ですが、ランチがすごいとの情報を入りました。ランチは680円、1500円(税別)があり、好きな物が自由に「三種類選べるセレクトランチ」980円と、「驚愕!牛タンだらけランチ」1500円を注文しました。「三種類選べるセレクトランチ」は、デジカルビ・鶏の唐揚げ・チキン南蛮・大根サラダ・玉葱サラダ・石焼きビビンバ・石焼きカレー・まぐろ丼・特製天丼・たまごスープ・冷麺・梅しそ冷麺・ざるそば・特製辛麺の中から自由に三種類選べるのが出来て、同じもの

を三皿注文する事も出来ます。今回、私は、デジカルビ(豚バラと鶏モモの味付け焼肉)

二皿と冷麺一杯を注文しました。妻は「驚愕!牛タンだらけランチ」を注文したので

が、運ばれてきた物がこちらになります。何と、大きな牛タンが二十枚盛られています

た。しまった!デジカルビを一皿にして、他のメニューを注文すれば良かったと後悔しながら、二人でやっこの思い

で完食しましたが、当分肉は見たくないと思いました。

もし、次回行く事があれば、二人ともセレクトランチを注文して、合計六種類のメニューを楽しむほうが良かったかもしれないという事になりました。

今回の教訓、肉ばかり注文しないで、野菜も頼まなきゃダメ!!!

(大)

発行 有限会社ナツプ
編集責任 中田 等
発行日 平成三十年九月
問合せ先 〇九八五五一七四〇九



宮日杯争奪卓球選手権大会に参加して!

七月二十九日に延岡市民体育館で、宮日新聞社主催の卓球大会が開催されました。いつもは毎年十二月に開催されるのですが、今年は何故かものすごく暑い七月にありました。さすがに体育館の中は冷房が入っていました。冷房の入った体育館で試合をする

のは、私の卓球人生の中で初めての事でした。大分県や熊本県からの参加もありレベルの高い大会でした。大会内容は硬式卓球の試合とラージボール卓球の試合と同じ体育館の中で分かれて、同時に行われるという宮日杯ならではの他にはない試合方式です。

私はラージボール卓球の試合の方に参加、試合は男子ダブルスとシングルの二種目に参加しました。シングルスは準々決勝で負けてベスト八止まりでしたが、男子ダブルスは接戦を勝ちぬいて決勝戦まで勝ち進みました。しかし決勝戦の相手は、熊本県ラージボールランキング一位と二位のペアで、この二人はこの日の男子シングルスも勝ち上がって、シングルの決勝はこの二人の戦いでした。個々の力ではとても勝てないけど、ダブルス戦だったら何とかなるかも知れないと自分達を信じて戦った結果、何と2-0で勝って私達が優勝して

ました。チームワークの勝利だったと思います。宮日杯は表彰式の時に優勝者インタビューがあり、次の日の宮日新聞に試合結果と優勝者のコメントが載るのですが、記者の方に

十分くらいインタビューを受けたのに、次の日の新聞のコメント記事は二行しかありませんでした。わずか三十秒くらいのインタビューでよかったような気がします。しかし優勝できてとても嬉しかったです。



くーねる

五四歳のおばさんは機械に弱い、情けないほど弱い。そんなおばさん四人がグループラインを始めた。三六年前に知り合った四人。青春時代をバラ寮で過ごした四人。結婚し、子育てをし、一年に一度会えば上等みたいな時を経て今年始まったグループライン。おはようからおやすみまで怒涛のような日もあれば、気が付けば四人とも静かな日もあって...お喋り内容も多岐にわたり、韓流俳優、更年期、台風、子供のこと、旦那の愚痴:断舍利、親の介護と尽き

ない。電話では相手の都合を気にするし、手紙はなかなか。そんな時に始まったグループラインは仕事をしながら家事をこなす私達にピッタリなツール、どうして今までできなかった?変なスタンプ間違えて送ったり、文字変換ミスは日常茶飯事、家族の冷たい視線を浴びながら「おはよう洗濯日和だね」「こっちは雨よ」「こっちは曇り」宮崎、滋賀、福井のラインは今日も続く。合言葉は、

「Epicはち行こうね」
楽しい事はかりじゃない毎日、辛い事の方が多いかも知れない毎日を一緒に笑って、泣いて、怒ってラインは繋がっている。子供たちのラインもいじめの温床ではなく楽しいラインにして欲しいとおばさんは一切に願う...

結婚生活より長いこの四人の付き合いが長く長く繋がっていきるといいなあ。ちなみにくーねるとは「食う寝る」
発想が私たちらしくて好きだ!
(直)



いんちぎンナイマーが行く！ 「靴と山シャツと私」編

山登りの必須アイテムとして、「靴」、「ザック」、「ウェア」があります。ここがちゃんとしてないと、時々白い目で見られたりするの山登りの世界です。しかし、慣れた山だと徐々に怠惰になってきたりして、ザックじゃなくてコンビニの袋を片手に、首の伸びた綿のTシャツ、素足に短パンという、ちょっとそこまです、みたいな雰囲気歩いていたりもします。けれども、靴だけはやはりちゃんとした物を履いていきますね。「靴」「ザック」「ウェア」のどれが一番大切かというと、やっぱりここは「靴」なんです。

靴次第で山登りは天国にも地獄にもなります。私の場合は、イオンのスポーツ店で三八〇〇円で購入したのがスタート。良い靴やら悪いのやら判断もできず、とりあえずは満足して半年くらい履きまわした。車のタイヤと同じく、靴底もすり減っていくものなんだと知ったのが丁度半年あたりでした。高級な靴なら靴底を張り替えるという選択もありですが、この靴に関してはそれはないかなと思いついて、次なる靴を探しはじめました。そして出会ったのがノースフェイス。水に強い、蒸れない、軽い、カッコイイと、大満足の靴でした。少々お高目の物でしたが、やはり値段は正直なのだと思いつく思いました。これを二年ほど履き潰してしまします。もう表面はポロボロ、靴底はツルツルでした。岩場や沢沿いを歩くときの耐久性を考えると、もうすこしゴツイ靴のほうがいかなという知恵もついてきました。

次に手に入れたのは、オーソドックスな革製の登山靴。ゴツくて重い。まずはシューというジェル状のボンドみたいなやつを継ぎ目や糸の目にすりこんで乾燥させて防水を行い、ナノクリームというシューズ用ワックスで単の保護と栄養を与える作業。これに一週間かけて、やっと履きまわろしです。手間はかかりますが、とにかく丈夫です。これぞ山靴ですね。そしてここ最近では、コロンの

ヒアの布製の軽いやつも履いています。場所にあわせて、ゴツイのと軽いのをチョイスするのが一番ですね。(賢)



コロニア



山幸オリジナル



ノースフェイス



スポーツオーソリティ

だから麻雀は面白い！

年齢不詳の四十代から六十代の仲間と定期的に麻雀をしています。麻雀はゲームです。から年齢などは関係なく、ハズレもありません、実力と運のゲームです。運を上手く引き寄せる事が出来れば実力に関係なく勝てる事も多くなります。それから、付度(そんたく)などしたら自分がポロボロになるくらい負けてしまいます。一度やり出したら止まらない、時間も家族もつい忘れ、いつの間にか浦島太郎になっていく、そんなとても面白い(悪夢の)ゲームです。さすが中国四千年の歴史で生まれた遊びだと感心します！

先週、いつもの麻雀仲間とのゲーム戦での事です！朝十一時ゲームスタートし半荘十八回目午後十時過ぎのラスト半荘ゲーム、その日の私はツキの神様が背中にお越しになり十八戦七勝の逃げ切り楽勝体制でした。K氏がリーチ！対面の私は西を捨てK氏がロンと言ったしはらく固まっています。なんと！四暗刻単騎待ちダブル役満六万四千点の上がり点数、一人凹みチップ六枚十リーチ即ドボンチップ二枚十役満ご祝儀チップ七枚十焼き鳥があったような？点数マイナス八九でゲームセット、最後のラストで今まで朝から長時間積み上げた勝ち点が一瞬で無くなった？私の背中にいた神様がK氏に飛び移った瞬間でした！勝負は下駄を履くまで、と反省しつつ口惜しいさっぱりで終了。麻雀も手柄が出ると言われます。喜怒哀楽が顔に出る人(私)は不利かも知れませんか？自分ではポーカーフェイスの顔をして騙しているつもりですが、M氏によく見破られます。そんな心理戦もゲームの奥深さで面白いです！これから先も麻雀を通して人生の奥深さを学んでいきたいと思っております。いつも麻雀で遊んでくれる仲間感謝です。合掌(等)



編集後記

高校野球も終わり、もうそろそろ夏の終わりを感ずる季節が近づいて参りましたね！とはいえず毎日うるような暑さが続いております。くれぐれもお体ご自愛下さい！今年の夏は、何をされましたか？私は避暑地を求めて、キャンプに行きました！日向の石並川キャンプ場にテントを張って一泊したのですが、川はやはりいいですね。プカプカ浮いてるだけで満足しました。しかし、普段インドアな私達は、バーベキューするまでに、なかなか炭に火が行き来渡らない！いつ肉にありつけるねん！と言いながら、やっと火がついて肉がやけるころには、缶ビールを三缶空けておりました。外で食事も楽しかったです。普段しないことの連続は良い刺激になります。「物よりの思い出」っていいか？聞いた言葉も満更でもないと感じた夏でした。(光)